

# 会社説明会資料

2026年5月29日

株式会社 **STG**

(証券コード：5858)

# 会社概要

商号 株式会社STG

銘柄コード 5858 (東京証券取引所)

創業年月 1975年11月

代表者 代表取締役社長 佐藤輝明

本社所在地 大阪府八尾市山賀町六丁目82番地2

事業内容 金属部品鋳造及び加工事業

資本金 4億380万円 (2026年3月末時点)

従業員数 連結 808名  
単体 56名 (2026年3月末時点)

『製造業アジアプラットフォーム型企業』として  
企業価値の向上を目指す

日本・中国・タイ・マレーシアに事業基盤を持つ『製造業  
アジアプラットフォーム型企業』として、マグネシウム合金・  
アルミニウム合金を中心とした軽量化技術を強みに事  
業を展開しております。

世界の製造業が大きく変化する中、当社はM & Aを重  
要な成長戦略と位置付け、技術・人材・顧客基盤・海  
外ネットワークを融合させながら、アジア市場での成長を  
加速させてまいります。

## 経営戦略

マグネシウム合金部品を中心とした軽量化ソリューションを戦略ドメインと定め、成長機会を捉えます。2025年度から始まる3年間の中期経営計画では、特に、技術・品質の向上と生産能力拡大を図るため、設備投資やM & A等を積極的に行っていく方針です。

# 会社概要 - 沿革




**株式会社TOSEI**

- 1985年  
日本初のマグネシウム専門メーカーとして株式会社東静工業（後の、株式会社TOSEI）が創業（現 静岡工場）
- 1995年  
Panasonic向けP C（レッツノート・タフブック）筐体生産開始（TOSEIと取引開始）

## 受賞歴 award history

- 2015年  
経済産業省ダイバーシティ経営企業100選に選ばれる
- 2017年  
ジャパンベンチャーアワード（JVA）2017中小機構理事長賞 受賞

(注) ブラスト加工とは粒状の研磨材を投射、衝突させることで物理的に加工を行う工法。



# 1. 2026年3月期 通期業績

# 説明ハイライト

## 決算概要

売上高6,815百万円、5期連続過去最高

営業CF687百万円、過去最高

M&A関連一時費用122百万円を吸収し黒字確保

## 2027年3月期

## 通期予想

過去最高の営業利益500百万円を予想

E-Cast通年寄与とSTX連携でマレーシア事業拡大

配当20円を予定

## M & A 戦略

M&Aを成長ドライバーに、

製造業アジアプラットフォーム型企業へ

# 業績サマリー（P/L）

## 5期連続で最高売上を更新

マレーシアに2つ目の拠点となるE-Cast Industries Sdn. Bhd.（以下、E-Castという。）の買収をおこないました。結果として、修正した業績予想を12.3%上回る、当期純利益280百万円となりました。

売上高

**6,815** 百万円

営業利益

**337** 百万円

経常利益

**380** 百万円

当期純利益

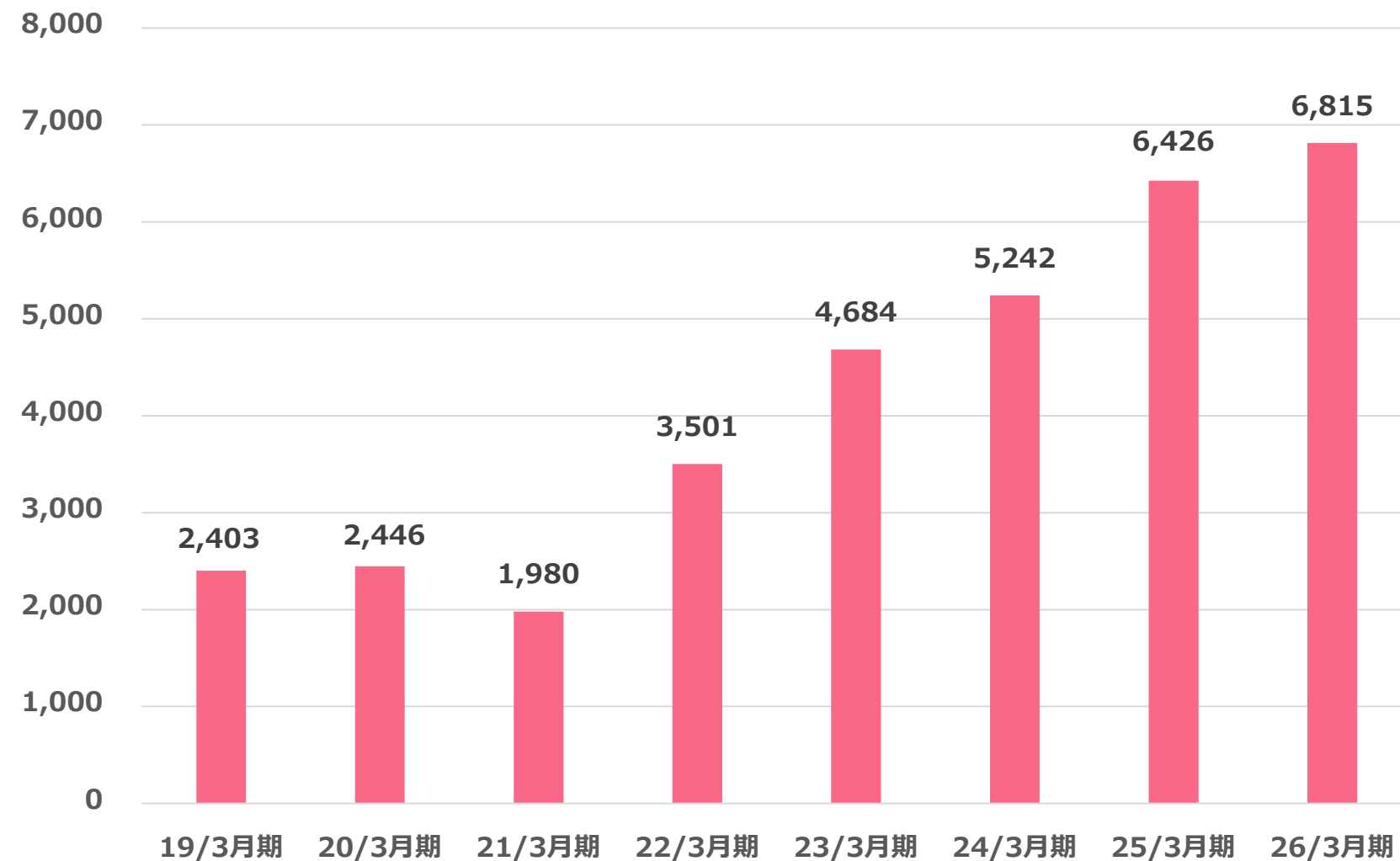
**280** 百万円

単位：百万円

	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 業績予想 (修正後)	2026年3月期 通期実績	前期比		業績予想（修正後）比	
				増減額	増減率 (%)	増減額	達成率 (%)
売上高	6,426	6,800	6,815	+389	+6.1	+15	100.2
営業利益	485	320	337	△148	△30.5	+17	105.4
営業利益率	7.5%	4.7%	4.9%	△2.6%	-	+0.2%	-
経常利益	513	340	380	△133	△25.8	+40	111.9
経常利益率	8.0%	5.0%	5.6%	△2.4%	-	+0.6%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	389	250	280	△109	△27.9	+30	112.3

# 売上高の推移

(百万円)

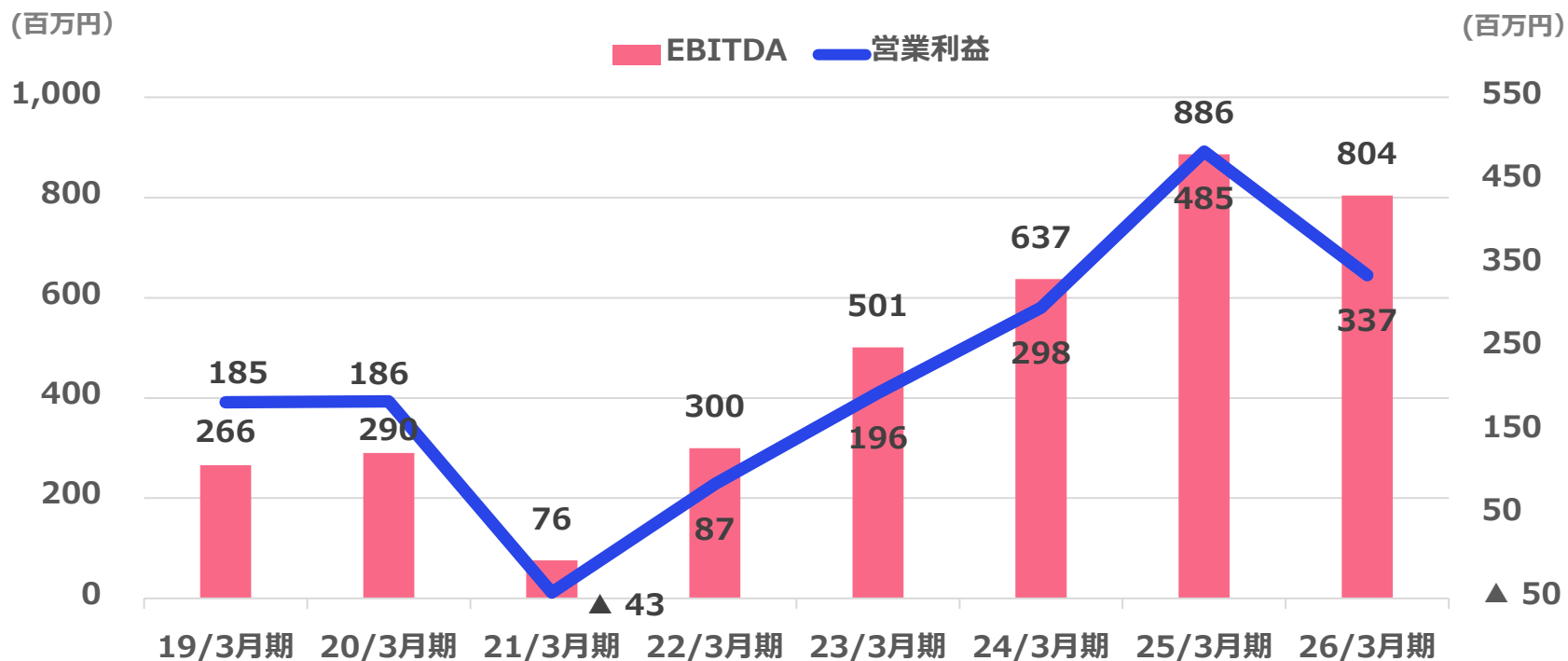


■ 売上高

# 営業利益・EBITDA・キャッシュフローの推移

## 過去最高の営業キャッシュフロー

M & Aによりキャッシュ創出力を拡大させました。営業利益は、一時費用等により抑制されました。

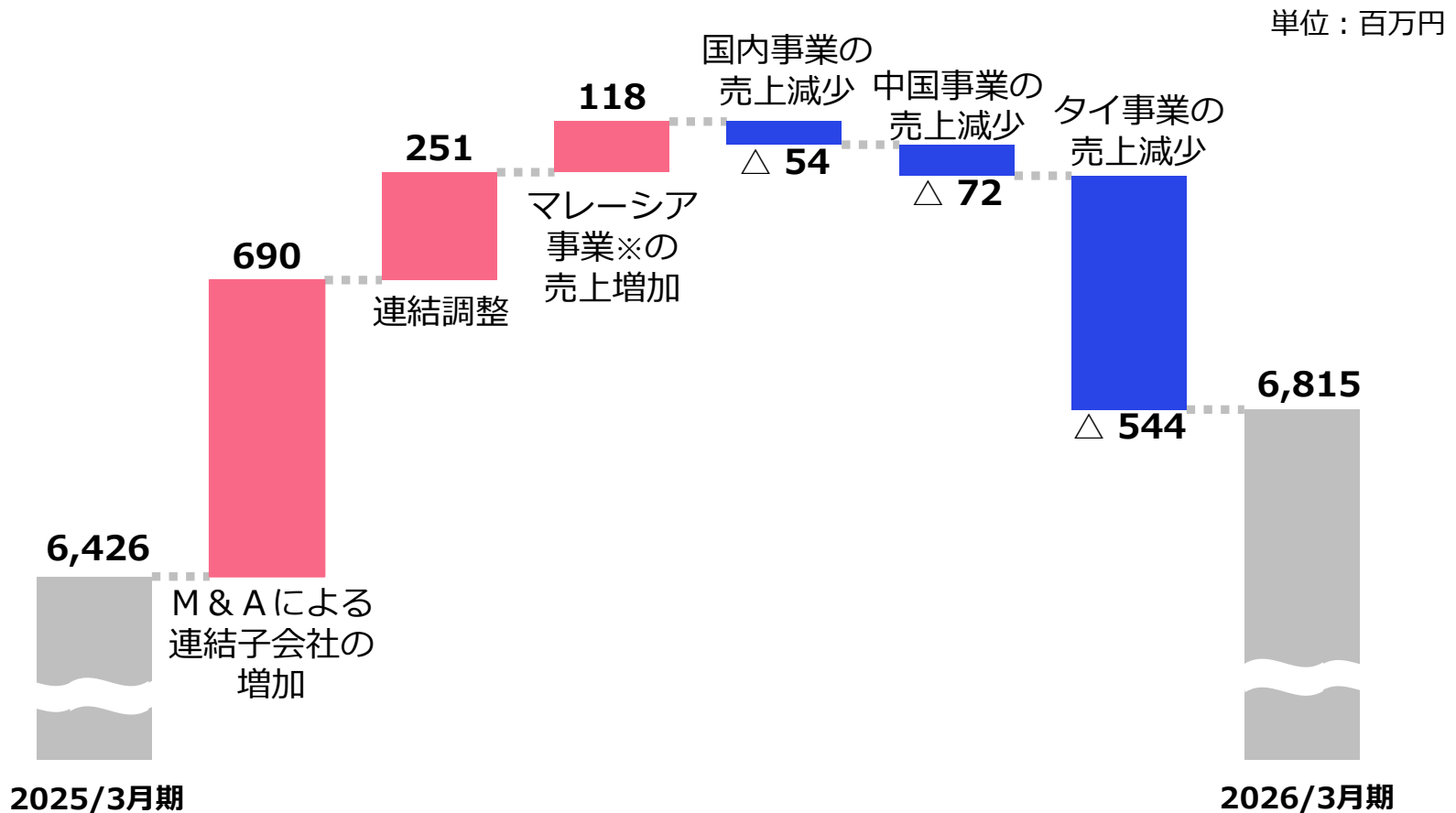


(単位：百万円)

	23/3月期	24/3月期	25/3月期	26/3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	519	242	542	687
投資活動による キャッシュ・フロー	△233	△381	△360	△2,266
財務活動による キャッシュ・フロー	85	207	△205	2,204

# 売上高の増減分析

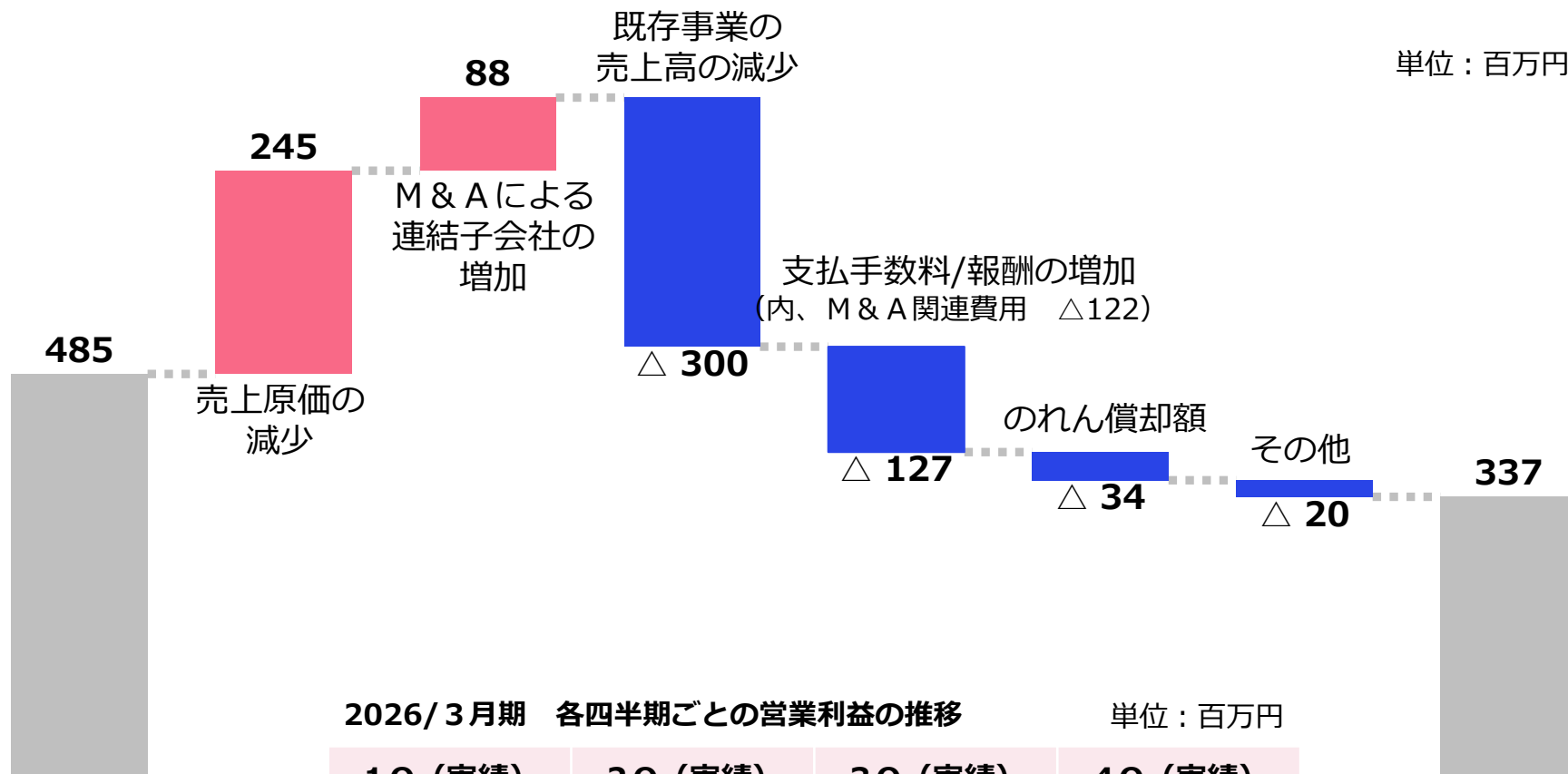
タイ事業においては、EV向け自動車部品等の売上が予想を大きく下回りました。一方、当期に買収したE-Castの売上が新たに加わったことで、タイ事業の減少分を補完し、グループ全体の売上水準の増加基調を持続することができました。



(注) 上記マレーシア事業※には、新たに加わったE-Cast分を含んでいません。

# 営業利益の増減分析

新規連結子会社の利益貢献により2026年3月期の営業利益は337百万円となりました。M & A 関連費用は今期限りであり、既に開始しているP M I等を通じてシナジー効果が出始めています。



2026/3月期 各四半期ごとの営業利益の推移 単位：百万円

1 Q (実績)	2 Q (実績)	3 Q (実績)	4 Q (実績)
113	△34	124	133

M & A 実施

2025/3月期

2026/3月期

# 業績サマリー（B/S）

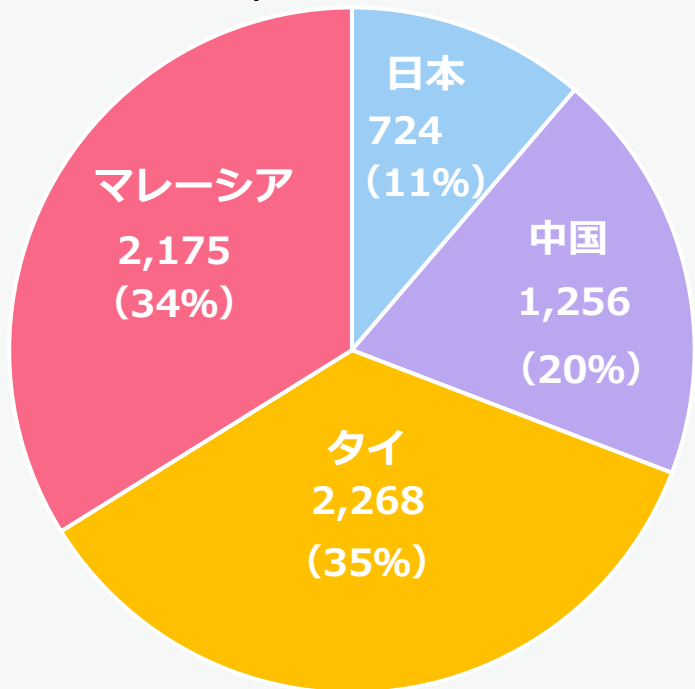
M & Aにより総資産は9,639百万円へ拡大したが、優先株式発行により純資産も増加し、自己資本比率は36.4%から36.8%へ上昇しました。

単位：百万円

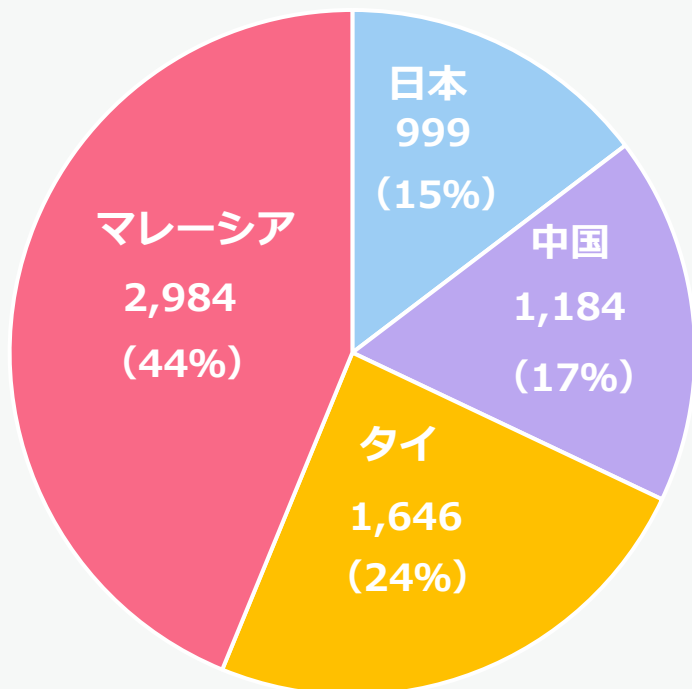
	2025年3月期 通期実績	2026年3月期 通期実績	前期比 増減額	増減要因
流動資産	3,967	4,785	+818	
固定資産+繰延資産	2,685	4,853	+2,168	
<b>資産合計</b>	<b>6,652</b>	<b>9,639</b>	<b>+2,986</b>	M & Aの実施による増加
流動負債	2,485	2,792	+306	
固定負債	1,743	3,290	+1,547	
<b>負債合計</b>	<b>4,228</b>	<b>6,082</b>	<b>+1,854</b>	借入金（M & A資金）の増加
株主資本	1,967	2,780	+812	当期純利益の計上、優先株式の発行
その他	456	776	+319	為替換算調整勘定の増加等
<b>純資産合計</b>	<b>2,423</b>	<b>3,556</b>	<b>+1,132</b>	
<b>負債純資産合計</b>	<b>6,652</b>	<b>9,639</b>	<b>+2,986</b>	
<b>自己資本比率</b>	<b>36.4%</b>	<b>36.8%</b>	<b>+0.4%</b>	純資産の増加により上昇

# 国別売上高

2025年3月期  
6,426百万円



2026年3月期  
6,815百万円



2026年3月期  
【マレーシア内訳】

STX PRECISION (JB) SDN. BHD. 2,294百万円  
(以下、STXという。)


E-CAST INDUSTRIES SDN. BHD. 690百万円

(注) 売上高は生産した工場の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

なお、中国には香港を含んでおります。

(有価証券報告書ベースのセグメント情報は、顧客の所在地を基礎としております。)

(注) E-Castについては、2025年6月30日をみなし取得日としており、6か月分の数値となります。



# 2. 2027年3月期 業績予想

# 業績予想サマリー（P/L）

6期連続で最高売上の更新を見込んでおります。

本件業績予想公表時には、当社グループの海外子会社の1Q業績速報値（1月～3月）をすでに織り込んでおります。1Qは、自動車等関連部品の低調等があったため、通期の売上高は伸びるものの利益水準が伸び悩んでおります。

しかしながら、中国事業の精密機器関連及びマレーシア事業のネットワークカメラ関連の受注増加による売上の拡大、マレーシア事業での2社の連携強化によるコスト削減を見込んでおります。

成長基盤の構築を優先しながら、中期的な収益向上につなげてまいります。

単位：百万円

	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期予想	増減額	増減率（%）
売上高	6,815	7,600	+785	+11.5%
営業利益	337	500	+163	+48.3%
営業利益率	4.9%	6.6%	+1.6%	-
経常利益	380	420	+40	+10.4%
経常利益率	5.6%	5.5%	△0.1%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	280	290	+10	+3.3%

※2027年3月期の配当金につきましては、普通株式1株あたり20円を予定しています。

※業績予想においては、M & A等未決定事項に関する損益、及び為替差損益等は見込んでおりません。

なお、想定している為替レートは以下の通りです。USD: 160円 HKD: 20.4円 RMB: 23.2円 THB: 4.9円 MYR: 40円



# 3. 中期経営計画の 進捗状況

## 中期経営計画の進捗状況

2028年3月期の連結売上高120億円、連結営業利益12億円という成長目標を  
持続したまま、この目標に向けた施策を実施してまいります。

(単位：百万円)

	2026/3月期 (実績)	2027年3月期 (業績予想)	2028年3月期 (中期経営計画)
連結売上高	6,815	7,600	12,000
連結営業利益	337	500	1,200

### 現状の進捗が遅れている要因

- ① 自動車等部品分野での低調
- ② マレーシアにおける大型プロジェクト開始時期の遅れ
- ③ M & Aの慎重な取組み（高値買いの回避、高収益企業の厳選）

### 具体的な成長シナリオ

- ① マレーシアの大型プロジェクトにより、STXの売上規模は、最大年間**20億円**程度増加する見込みです。なお、26年3月期のSTXの営業利益率は約**18%**です。更に、E-CASTとのシナジー効果により利益率の向上を見込んでいます。
- ② 年1件以上のM&A取り組みを目標としていましたが、検討案件数が大幅に伸びていることからM&A実施件数の拡大を図ってまいります。（売上水準、利益水準とも目標達成圏内です。）
- ③ 自動車等部品分野以外は好調であり、高付加価値カメラ部品の受注拡大を進めます。
- ④ 営業利益率の大幅上昇のために、戦略的な経費削減を進めます。

# 中期経営計画の進捗状況（国内事業）

## 現状認識

自動車等部品の低調を受けて、既存事業については低調に推移すると見込んでおります。ただし、国内の中小企業の事業承継ニーズは非常に強いものがあり、M & Aの持ち込み案件は急激に増加しています。

## 目標達成にむけた取組

**事業承継×技術力の結集（中小製造業プラットフォーム）で、国内事業の新たな成長軸を確立するため、積極的にM & Aに取り組みます。**

中小企業の事業承継ニーズを取り込みながら総合部品ビジネスへの転換を推進し、事業領域を拡張してまいります。企業群の結集による効率化と全体最適を図るとともに、事業拡大を支える組織体制の強化にも注力してまいります。

### 事業承継（M & A）

- ・ 後継者不足の中小規模の部品メーカーの取り込み
- ・ 既存事業との親和性を活かしビジネスを結集
- ・ グループの製品・顧客基盤を拡充

### 生産効率の向上

- ・ M & A先との生産能力・技術力の統合を推進
- ・ 工程最適化でコスト削減
- ・ グループ内シナジーで全体の競争力を最大化

### 人材基盤の強化

- ・ 技術・管理人材の積極採用（M & A経由含む）
- ・ 人材交流・OJTによる次世代への技術承継

# 中期経営計画の進捗状況（中国事業）

## 現状認識

中国国内での経済環境が大きく変動している中、ほぼ中期経営計画に沿った事業展開を進めています。

## 目標達成にむけた取組

**売上構成の転換と新規案件獲得で増収増益を実現いたします。**

日系以外の企業への販売力を強化するとともに、日系企業向けの売上も維持拡大してまいります。

### 現状の事業構造

**日系企業向け売上が中心**  
・日系顧客への依存度が高い



**転換・拡大**

### 目指す事業構造

**日系以外の企業への販売を拡大**  
・中国で生産している海外企業への販売力を積極的に増強

# 中期経営計画の進捗状況（タイ事業）

## 現状認識

EV需要の低調を受け、売上が予想を大きく下回っています。  
ただし、マグネシウムダイカストを生産できるサプライヤーが限定的であるため高付加価値カメラ部品については、受注の拡大を見込めると考えています。

## 目標達成にむけた取組

**自動車部品から高付加価値カメラ部品への回帰、部品単価の拡大、抜本的な経費削減により収益性の改善を実現いたします。**

すでに高付加価値カメラ部品の受注拡大にむけた獲得工作を進めており、マグネシウム合金の軽量・高精度という当社の強みが最大限に生きるこの分野への回帰を着実に進めています。かつ、これまで外注していた工程の内製化により売上単価の改善を図ります。

### 高付加価値カメラ部品へ回帰

- ・高付加価値カメラ部品の受注を開始済み
- ・量産体制構築後に収益性が大幅改善

### 部品単価の向上

- ・生産工程を拡大することにより付加価値を高める

### コスト構造の見直し

- ・製造原価・固定費の徹底削減
- ・生産効率向上によるコスト削減
- ・経費管理の精緻化による収益性向上

# 中期経営計画の進捗状況（マレーシア事業）

---

## 現状認識

S T Xのアルミ合金部品については順調に受注拡大が進んでいる一方、自動車部品のマグネ合金部品の生産を念頭に進めてきた準備については、直近の需要環境を考慮し、当面見送ることとしました。

E-Castについては、二輪部品等の需要が減速しているため、S T Xの生産をサポートする役割を担う体制構築を進めています。なお、これまで外注していた金型生産については、既にS T Xでの生産に切り替える等、内製化（シナジー効果）が現れてきています。

## 目標達成にむけた取組

**内製化・生産効率向上を通じ、中期経営計画の達成に貢献いたします。**

マレーシア事業は、既存のS T Xに加え、2025年9月に買収したE-Castを加えた2拠点体制となりました。S T Xの受注が非常に順調に推移しているため、自動車等部品の減少分をこの受注増で補うことを進めています。この結果、S T Xは増産のための設備投資を抑制できます。

# 中期経営計画の進捗状況（目標達成に向けたマレーシア事業の拡大）

## 大型プロジェクトの開始に備えた、生産能力の拡大・収益性向上

STXが受注した大型プロジェクトにE-Castが加わることで、グループ全体の生産量が大きく拡大します。さらに、2社が緊密に連携することで、設備投資の抑制、外注費の削減（E-Castの金型製造の内製化）を実現することが可能となりました。

新規グループ参画

**E-CAST**

ペナン州

生産体制の強化  
大型案件の受皿

金型製作を依頼



大型案件における  
生産補完

既存グループ拠点

**STX**

ジョホール州

金型製作・製造工程有  
大型案件を受注

### 外部委託による流出

外部業者へ「金型製造」や「生産工程」を委託していた。  
多額の外注費がグループ外へ流出。

### グループ内吸収（内製化）

STXの技術とE-Castの生産余力を相互活用。  
外注費をグループ利益として吸収し、収益性が改善。  
（25年12月期金型仕入れ実績 21百万円）

## 中期経営計画の進捗状況（M & A）

日本国内における近い将来の人口減少、事業承継ニーズの高まりを背景に、M & A 関連の検討案件が大幅に増加しています。

当社グループは、今後海外案件のみではなく、国内のM & Aにも注力してまいります。ものづくりに強いこだわりを持つ中小企業として、技術力の高い中小企業の廃業等には強い危機感を感じており、当社グループの中にこれら製造業の技術力を結集し、プラットフォーム化することで、グループ力を高めてまいりたいと考えております。

### M & Aに関する方針

#### ① 高値買いをしない

公正な企業価値（EV/EBITDA法・マルチプル）をもとに、高値買いを徹底排除し、投資回収を意識した規律ある姿勢を堅持します。

#### ② 買収対象先は製造業の高収益企業・事業再生企業

買収対象先は高収益企業にとどまらず、業績改善の余地がある事業再生案件まで幅広く検討します。（当社はこれまでのM & Aで事業再生に成功しています）

#### ③ 地域は、日本全国及びASEAN

海外案件のみではなく、日本国内のM & Aにも注力いたします。

高収益企業・事業再生案件

STG独自の管理・再生ノウハウ

収益回復・グループシナジー創出

### 過去のM & A実績にみる独自の収益改善ノウハウ

過去に買収した**株式会社TOSEI・STX**はいずれも再生に成功し、グループ成長に貢献。

## (ご参考) 過去のM & Aの事例

### 当社グループのM & A過去事例 (2021年のS T X買収後の再生実績)

赤字企業であったS T Xをコロナ禍の中2021年3月に買収。P M I 及び品質改善運動に取り組み、買収翌年から黒字化を達成し、4年間で売上・利益ともに持続的成長を実現

 **売上高** 1,581百万円 → **2,294百万円**  
4年間で1.5倍の規模に成長

 **営業利益** △15百万円 → **402百万円**  
買収翌年に黒字転換達成

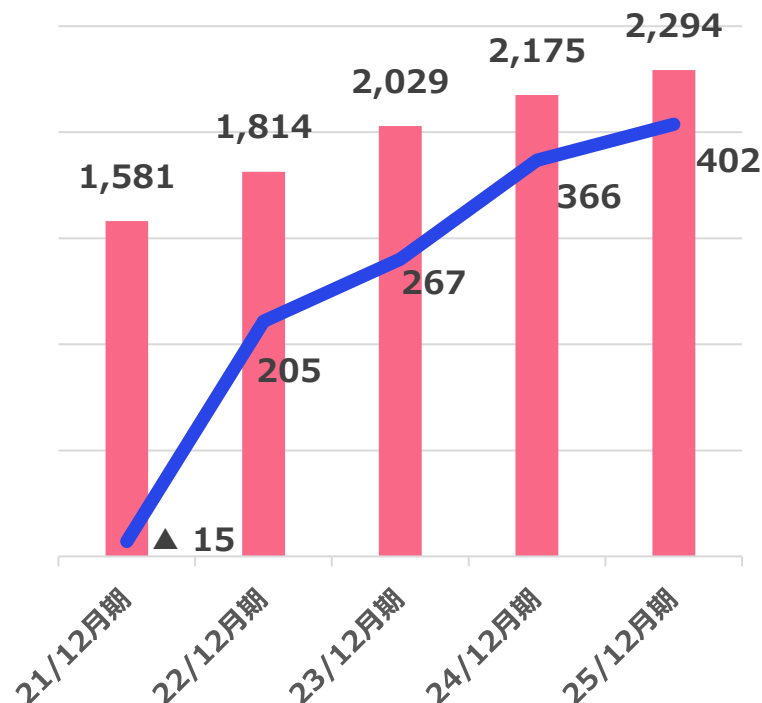
#### P M I 実績を活かし、E-Cast統合を加速

経済産業省 (関東経済産業局) が2026年2月に公表した「中堅・中小企業のための海外M & A事例集」に、当社は**P M I 成功企業として選定・掲載されました。**

多くの日本企業が課題とする海外P M Iにおいて、S T X買収で培ったノウハウを活かし、E-Castでも早期シナジーの実現を目指してまいります。

【S T X】業績の推移  売上高  営業利益

(単位: 百万円)



(注) 各計数は、内部取引消去前の数値です。

# 4. Appendix

The right side of the slide features a large, abstract graphic composed of several overlapping geometric shapes in various shades of blue. A prominent dark blue diagonal band runs from the top center towards the bottom right. To its right, there are lighter blue shapes, including a large triangle at the top right and a parallelogram-like shape at the bottom right. The overall effect is a modern, geometric design.

# 拠点別の業績

## STG（日本）

### 主な製造部品

高付加価値カメラ製品  
 電動自動車部品  
 自動車部品等の二次加工



## 中国工場（香港含む）

### 主な製造部品

プロジェクター部品  
 プリンター部品  
 ドローン部品



## タイ工場

### 主な製造部品

高付加価値カメラ製品  
 電動自動車部品



百万円	25/3期	26/3期	前期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	1,603	1,549	△53	△3.4
売上総利益	628	694	+65	+10.4
営業利益	53	82	+28	+52.0
経常利益	295	291	△3	△1.0

百万円	25/3期	26/3期	前期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	1,256	1,184	△72	△5.7
売上総利益	343	313	△30	△8.8
営業利益	231	208	△22	△9.9
経常利益	227	201	△26	△11.5

百万円	25/3期	26/3期	前期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	2,268	1,724	△544	△24.0
売上総利益	409	268	△140	△34.4
営業利益	205	104	△101	△49.2
経常利益	218	84	△133	△61.2

(注) 各計数は、内部取引消去前の数値です。

(注) 1. 各計数は、内部取引消去前の数値です。  
 2. 表中ではグループ内のロイヤリティの影響を除く目的で営業利益及び経常利益の調整をおこなっております。なお、ロイヤリティの調整を除く営業利益は、25/3月期73百万円、26/3月期49百万円となります。経常利益は、25/3月期69百万円、26/3月期42百万円となります。

(注) 1. 各計数は、内部取引消去前の数値です。  
 2. 都度ロイヤリティの見直しをおこなっているため、表中ではロイヤリティの影響を除く目的で営業利益及び経常利益の調整をおこなっております。なお、ロイヤリティの調整を除く営業利益は、25/3月期119百万円、26/3月期8百万円となります。経常利益は、25/3月期131百万円、26/3月期△11百万円となります。

# 拠点別の業績

## マレーシア・ジョホールバル工場

### 主な製造部品

産業用精密機器部品・電動車部品・医療機器部品



百万円	25/3期	26/3期	前期比	
			増減額	増減率 (%)
売上高	2,175	2,294	+118	+5.4
売上総利益	604	657	+52	+8.7
(調整後) 営業利益	366	402	+36	+9.8
(調整後) 経常利益	358	369	+11	+3.1

- (注) 1. 各計数は、内部取引消去前の数値です。  
2. 都度ロイヤリティの見直しをおこなっているため、表中ではロイヤリティの影響を除く目的で営業利益及び経常利益の調整をおこなっております。なお、ロイヤリティの調整を除く営業利益は、25/3月期246百万円、26/3月期276百万円となります。経常利益は、25/3月期238百万円、26/3月期244百万円となります。

## マレーシア・ペナン工場

### 主な製造部品

自動車部品・バイク部品・電動工具



百万円	26/3期
売上高	690
売上総利益	150
(調整後) 営業利益	88
(調整後) 経常利益	86

- (注) 1. 2025年6月30日をみなし取得日としており、6か月分の数値となります。  
2. のれんの償却額は含まれておりません。